所管事務調査報告

総務経済常任委員会

○ 日　時　平成20年11月13日～14日

○ 調査先　岩手県滝沢村（人口が日本一の村）

○ テーマ　産業振興と雇用の確保について

1. 調査の目的

富士見町は、農村から発展した町で、特に諏訪湖周辺の三市二町一村で広域的な連携を持ちながら、自立の道を選びました。

しかし、近年の経済情勢には非常に厳しいものがあり、自立の町として、既存産業を中心に新たな企業誘致・観光戦略を展開し、生き残るための方策を研究し、今後のあるべき町の姿を確立する必要があります。

そこで、人口が日本一の「村」、滝沢村の産業の諸施策について、現状を調査しました。

2. 村の概要

滝沢村は、盛岡市の北西部に位置し、面積182・32平方キロメートル、秀峰岩手山から雫石川・北上川が村内を流れ、酪農・水稲・野菜等を主体とした都市近郊農業地域です。

村内は、民間宅地開発、各種事業所・大学の立地により、都市化が進行し、村は街路や下水道などの都市基盤整備に取り組んでいます。

特に東部地域には、平成10年に県立大学が開校し、盛岡大学・県立農業高校・その他各種研究機関が集積しています。

滝沢村職員から説明を受ける

人口は、5万3千人、昭和50年と比較すると3倍強となっています。

また、産業構造では、第3次産業を占める割合が71・4％と、最も多くなっています。

3. 村の産業振興

村は、①盛岡広域圏49万人の商業圏、②高速道路・鉄道等の交通インフラに恵まれ、首都圏へのアクセスが良い、③大学や研究機関が立地・隣接しており、各専門分野の人材が豊富です。

これらの長所を踏まえ、産直施設の建設・県立大学周辺へのＩＴ産業集積・盛岡西リサーチパーク造成等により、産業振興と雇用の確保を推進し、農業が元気な町づくりに取り組んでいます。

また、進出企業に対しての優遇措置も完備し、積極的な産業振興を展開しています。

特に村で、ＩＴ産業の集積構想に関連し、オフィスタイプの賃貸研究室「ＩＰＵイノベーションセンター」を県立大学地域連携研究センターに隣接して建設しました。

この施設は、一棟２階建、部屋数は12室（1部屋33～68㎡）を3年間単位で、9年間格安に賃貸し、ＩＴ企業（個人・法人を問わない）の養成を目指した、産学連携サポート施設となっています。

このように、滝沢村は、盛岡市の近郊に位置することから、地理的条件を生かすと共に、産学官・大学等との連携を生かした産業振興に取り組んでいます。

地元農産物を販売している「たきざわ産直館」